

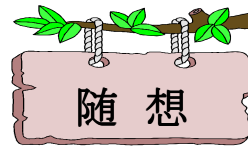


創刊  
昭和42年10月10日  
第142号  
平成27年11月27日  
能代市教育委員会  
学校教育課  
題字 元能代市教育長  
鎌田 宏

朝の風景

第五小学校

校長 工藤 賀津子



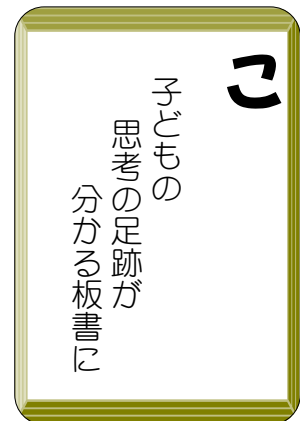
素敵な一日を予感する本校の朝の風景を紹介したい。

四月のある朝。一年生の教室には、張り切って新入生の世話をする六年生の姿が。ロッカーや机の整頓を手伝い、昼休みに遊んであげる約束をしている。何が六年生を突き動かすのだろう。幼い者への心遣いか、それとも最上級生の自覚なのか。関わり方は少々ささやかないが、微笑ましい光景である。二月のある朝。そこには、頼もしく成長した六年生の姿が。登校班長として凍った路面に気を付けながら、時折立ち止まって後ろの下級生を待っている。私はこの姿に、「人は、人生の中で他の人の

歩調に合わせて歩くことをどのくらい経験するだろうか。」と思いながら、最後の班を見届けて校舎に入った。

始業前の廊下は、朝の放送を終えた放送委員、図書委員や健康委員で賑わっている。「そういえば、今朝は図書委員の読み聞かせ、金曜日だから健康委員の清潔検査。」と思いつつ体育館へ向かった。ここでは、レクスポ委員がなわとびタイムの準備中。どの委員会も六年生が中心となって手際よく活動を終え、明るい挨拶をしながら私の横を通り、教室へ戻っていく。

朝の風景は、全教職員による「子どもたちの主体性を育てる指導」や「有用感をもたせる励まし」の成果が見える風景でもある。



子どもと共に

創り上げる板書

浅内小学校

教諭 齋藤真理子

3年生の算数「重さの計算」の授業。自分で板書した考えを説明する子どもたち。子どもの考えに「〇〇方式」と名前が付けられ、学びが印象的なものとなって、黒板に残ります。子どもを黒板の前で活躍させ、子どもの思考をしっかりと生かす。まさに「齋藤先生の底力！」です。

文責：

教頭 明石まき子

## これが私の指導法 ～知的財産の継承～



能代第二中学校  
教諭 袴田 誠

これまで多くの先輩方から、能山の社会科は「泥臭い社会科」と「足を使った社会科」

という話を聞いてきました。私もできるだけ地域素材を取り入れた授業を実践し、少しでも先輩方に近づきたいという思いで取り組んできました。以下、私を中心に残った地域素材を紹介します。

二ツ井中では町の郷土芸能について調べ、実技を交えて発表したり小道具を持って来たりして発表する班がありました。その中で、二ツ井の郷土芸能が常陸の国から伝わったものがあることを知り、どうして常陸の国から伝わったのか

話し合いました。また、フィールドワークをする中で、学校近くの清徳寺に大隈重信が参拝に来ていたこと、さらにそのお寺には戊辰戦争に関わった佐賀藩士の墓があることを知り、調査活動を行いました。能代東中では、元慶の乱に關わる野代宮の跡が学校の裏にあつたことを紹介しました。また、柏子所貝塚から発見された縄文人の人骨を借りてきて生徒に見せたことで、実物に勝るものは無いという事を実感できました。県立博物

### 我が校の実践

淳城南小学校

教諭 佐藤 牧子

『共に成長を実感できる授業を目指して』

本校では、「学び合い」を核として教科等の様々な角度から授業を検証しています。学び合いの場面の仕掛け、授業研究会の具体について実践例を紹介します。

#### ① 学び合いの充実のために

まずは学級経営を基盤として、「発表して当たり前」の雰囲気や適度な緊張感をつくり上げること。そして、話し方・聴き方名人の視点に従って、学び合いの型を根気強く定着させていきます。完成された発言だけではなく、友達と協

力して補い合いながら話し合いを上げていくことも大事にしています。考えて出し合い、お互いに質問や意見を絡めながら学び合いを深め、ねらいに迫っていきます。

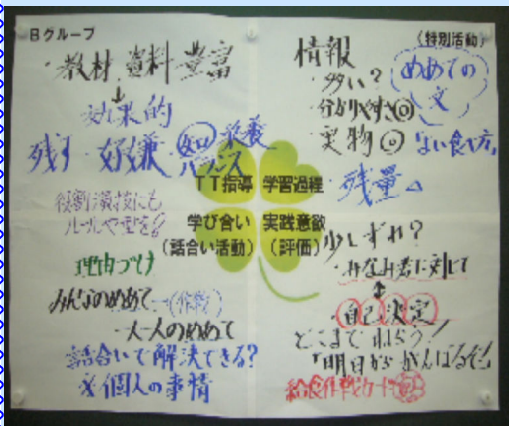
#### ② 「終末の活性化で学力定着」

算数なら、まとめ・評価・適用問題という振り返りの一連の流れを、最低十分以上確保しています。毎時間のゴールを明確にし、振り返りの視点を示すことで「こんなことができるようになった。こんな力が身に付いた。」と、自分の成長が実感できるように授業を構成しています。すきまの時間すら効率よく活用し、テンポよく授業を展開させることが鍵となります。

#### ③ 「ワールドカフェ方式で研究会」

従来のワークショップ方式ではなく、ホスト役（リーダー）を固定しメンバーが入れ替わるワールドカフェ方式の授業研究会で、教師の学び合いもどんどん深まっています。視点に沿って自由に模造

紙にキーワードを書き込んでいく中で活発に意見交流が行われ、必ず提案を示すようにします。「次はこれを取り入れてみよう」「明日からここを重点に」という意欲が湧き、教師も成長を実感できる有意義な時間です。今後も探究的、協同的な学びで授業づくりに取り組んでいきます。



館へ行って、縄文人のくらしについて調査活動を行ったのも効果的でした。八森中では、本館城の跡へ休みを利用して出かけた生徒がいて、本館一揆の寸劇を上演してくれました。八森で検地に反発した大規模な一揆があったことに生徒たちも驚いていました。また、かつて八盛鉱山があり、雄島で宴会をやるほど栄えたことを知ったのも感動的でした。

これからも生徒の興味・関心を高めるために、できるだけだけ地域素材を取り入れて、地域を愛する生徒が増えるように努力していきたくと思います。



### 編集後記

工藤賀津子校長先生（第五小）の「随想」。「人は、人生の中で他の人の歩調に合わせて歩くことをどのくらい経験するだろうか」という言葉に立ち止まる。今年、たくさんの方のすてきな「能代の先生」に出会った。同時に、先生の思いに込めようと頑張る子どもたちの姿にも。改めて、「教師」という職業に就いたことの喜びを感じる。今年も一年間、お疲れ様でした。そして、来る年もよろしくお願いたします。（Y）